

プラスチック問題解決のために

今まで

京都生協は、これまでの環境の取り組みの中で「お買い物袋持参運動」「リサイクル活動」「エコ商品商品の普及」などを通じ、プラスチック使用量の削減、軽量化、環境への負荷が少ない素材への変更などを進めてきました。

これから

日本生協連、コープきんぎ事業連合と連携して、CO・OP商品における使い捨てプラスチック製容器・包装の使用量の削減と、再生・植物由来の素材^(※)使用、プラスチック以外の素材使用拡大を進めます。

※再生プラスチック：回収ペットボトル等、再生資源を原料として使用したプラスチック
植物由来プラスチック：再生可能な植物由来の資源を原料に、化学的または生物学的に合成することで得られるプラスチック

今後の取り組み

事業で発生する使い捨てプラスチック製容器・包装の使用量削減と素材の変更を進めます。2025年にレジ袋の有料配布をとりやめるための取り組みを進めます。

資源循環や海洋流出へ効果があるリサイクル活動を組合員とともに推進します。新たに宅配内袋、注文書セット袋の回収率を高める取り組みを進めます。

組合員学習企画や学習資料の整備を行い、「プラスチック問題」についての学習を深め、行動にうつす機会をつくります。

みんなで取り組もう

一人ひとりができること

Reduce



▲パケットレーから袋へ



▲ラベルレスボトル

パッケージの少ない物を選ぶ

1人あたり 組合員
1gの削減×56万人
=560kgの削減

お買い物で

お買い物袋を持参する

2020年度
お買い物袋持参率

94.0%

レジ袋の削減枚数は
1,260万枚 (122tの削減)

たくさんの組合員にご協力いただいています。

Reduce



▲お買い物袋持参を呼びかけるぬり絵

ごみの分別で

宅配の内袋をリサイクルに出す

1人あたり 宅配利用人数
内袋1枚/週×18万人
=週1.1t、年間56.9t
のリサイクル回収量



▲ハートコープきょうとでの内袋リサイクルの様子

ほかにも、カタログ類(宅配)、卵パック・紙パック(宅配・店舗)、食品トレー・ペットボトル(店舗)のリサイクルも行っています。

※2021年10月に配布した「環境チラシ」で、2020年度の内袋の回収率の記載を19.7%としておりましたが、17.3%の誤りでした。申し訳ございません。

学習会への参加で

問題について考え行動する

私たち一人ひとりの行動が、子どもたちがくらす未来を変えることにつながります。



オンライン学習会▶
『プラスチックごみを減らして海の環境を守ろう』



▲鴨川クリーン作戦

みんなで考えよう

プラスチック問題と その対応

京都生協のプラスチック問題に関する考え方と今後の取り組み

環境課題の1つとして世界的に関心が強まっているプラスチック問題。

持続可能な社会を目指して、まずは知ることが第一歩となります。

一人ひとりがこの問題に関心を持って、

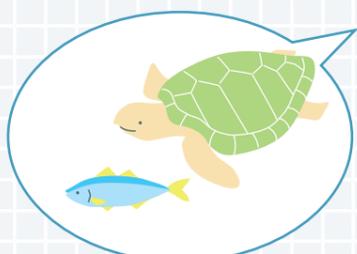
暮らしの中で身近にできることから、取り組みを進めましょう。



地球温暖化



石油資源の枯渇



海洋汚染

このままプラスチックが増え続けると…?



プラスチック問題って？

便利なプラスチック

プラスチックは石油からつくられます。軽量で密封性・耐熱性・耐久性に優れ、しかも安価なため、世界中で多くのプラスチックが使われています。

みんなの身近にも
いっぱいあるよ

例えば

食品の容器包装をはじめとして、私たちの暮らしの中で、とても便利に活用され、利用が急拡大しました。



ペットボトル



スナック菓子の袋



レトルトパウチ



プラスチック製
スプーン・フォークなど

一方で…プラスチックには大きな問題も

1

原料が
化石燃料（石油）

製造時と廃棄燃焼時に
CO₂ を出す

地球温暖化



2

石油は
枯渇性資源*

大量生産
大量廃棄
をすると

資源枯渇



3

プラスチックは
分解されにくい

廃棄され、海洋などへ
流出すると

海洋ごみ、
生態系への
影響



*地球上にある資源のうち、その量が限られていて、自然のプロセスにより、人間などの利用速度以上には補給されない天然資源のこと。エネルギー資源のうち、石油・石炭・天然ガスなどの化石燃料は枯渇性資源です。

(出所：2021年10月15日京都生協プラスチック学習会「プラスチック問題と生協の対応（日本生協連作成）」)

京都生協のプラスチック問題への取り組み

3つの視点

地球温暖化対策

石油資源への
依存度の低減

海洋汚染・生態系への
悪影響を改善する

京都生協では、地球環境を守り持続可能な資源の有効利用を目指す取り組みとして位置づけます。

取 り 組 み 4R

リデュース
Reduce: 削減

リユース
Reuse: 再利用

リサイクル
Recycle: 再生利用

リニューアブル
Renewable: 再生可能資源

LCA*の視点で「Reduce: 削減」を最優先に進めます。

*原料の採取から製造、使用及び廃棄に至るすべての過程を通して、製品が環境に与える負荷の大きさを定量的に整理、評価する手法のこと

「プラスチック問題」の対応策には「使用量を減らす」「再利用する」「回収・リサイクルする」「素材を再生・植物由来・生分解性プラスチックに変更する」がありますが、プラスチック問題の解決につながる「使用量を減らす (= Reduce)」が特に重要です。

京都生協の取り組み目標

その 1

使い捨てプラスチック製
容器・包装の使用量を、
2030年までに
2018年度比で
25%削減します。
(※1)



その 2

2025年に
レジ袋の
有料配布を
とりやめます。
(※2)



その 3

2030年までに
宅配内袋・
注文書セット袋の
リサイクル回収率
40%を
達成します。



数値目標は、社会的な水準を参考に、
京都生協の未来のあるべき姿から逆算して目標を定める
“バックカスティング”の手法で策定しました。
社会情勢や進捗を踏まえて、見直すことがあります。

*1 対象が使用責任が明確な「容器包装リサイクル法で京都生協が再商品化費用を負担しなければならないプラスチック」に設定します。
*2 「お買い物袋持参率 100%」の実現に向けて、さらに踏み込んだ取り組みとして有料のレジ袋そのものを配布しない対応とします。